

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092200041		
法人名	社会福祉法人 真寿会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム 真寿苑		
所在地	和歌山県田辺市新庄町3166-1		
自己評価作成日	平成27年2月19日	評価結果市町村受理日	平成27年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/">http://www.kai.gokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成27年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模の利点を生かし、職員と利用者一人ひとりが深く関わる事により、その人の希望や願いを実現出来る様な対応と、適切なケアを心掛けています。  
季節ごとの行事を行い、また、散歩や買い物等、外の空気を吸って頂ける機会を多く取り入れてます。  
法人の医療施設との連携体制があり、安心して生活を送れるよう支援しています。

開設から8年を過ぎ、支援の仕組みが充実し運営推進会議も適切に開催され、グループホームとして安定した運営がなされている。食事は職員が買物から調理まで担当し、内容も豊かでホームの特色と言える。入居者への支援を担当制にしていることで、職員一人ひとりが責任を持った入居者対応がなされている。モニタリングや介護計画にも担当者が積極的に参加し、入居者のできること、できないことを見極めて関わることで認知症ケアがしっかりとされている。経験豊かな管理者の元で職員は誇りを持ち、改善への意欲もあり熱心に業務に臨んでいる。異動が少ないことで職員の定着も図られ、入居者との馴染みの関係が築かれている。想定される水害への備え、看取り介護の検討など、ホームとしての課題も明らかにし積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の人権を尊重し優しく思いやりのある介護を行い、地域に根ざした福祉サービスの提供を理念として掲げ、月1回のケアサポート会議で理念に沿ったサービスが出来る様に話し合っている。	法人の理念を基にホーム独自の理念を策定し、いつでも確認できるようリビングと休憩室に掲示している。「やさしく思いやりのある介護」を基本として毎年ケアサポート目標を決定し、その都度テーマをもって介護にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の住宅は少ないが、買い物、散歩を日常的に行う事で交流の機会を設けて、ふれあいを持つようにしている。	住宅地でないため交流は多くないが、散歩途中に民家を訪ねたり、町内会行事への参加、近隣小学校への訪問などを行っている。町内会には加入していないが法人代表者が所属しており、町内会員の訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談・見学の問い合わせには、都度対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催しサービスの取り組み状況や現状を報告し、話し合いの中での意見をサービス向上に活かしている。	併設の小規模多機能施設と共同で2か月毎に定例開催している。行政、町内会からの参加に加え、毎回家族の参加が多いことが特徴的である。利用者の状況、行事予定と報告、時々ホームの課題やテーマなどが報告・協議されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者にも参加してもらい、現状を伝えている。又、電話で問い合わせを受けたり、相談、アドバイスを受けている。	運営推進会議への参加が定着しており、ホームの現状や課題が理解されている。入居に係る電話相談を受け、また施設の状況を伝えてアドバイスをもらうなど協力関係は良好に保たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について研修を受けており、拘束しないケアを理解し、取り組んでいる。玄関はAM9:00～PM4:30は施錠していない。	法人内で行われる権利擁護や身体拘束をテーマとした研修に参加して理解を深めている。禁止行為に止まらず、心理的抑制や緩やかな行動抑制が生まれぬよう、管理者を中心に職員相互に確認しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修を受けており、理解できている。またお互いに相談、報告する関係に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修を受けているが、制度を活用する利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、理解し納得していただいた事を確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と職員は月1回自治会を開き、生活全般の希望や不安、不満を聞いて生活に反映するようにしている。また運営推進会議にて家族からの意見、要望も反映するようにしている。	利用者と職員が共に参加して開催される自治会において意見・意向を汲みとる努力がなされている。利用者の主体性を尊重しようとする姿勢が「自治会」という名称に現れている。食事に関する要望が多く寄せられ実現に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月の初めに職員間でケアサポート会議を開催し、意見や提案を検討し運営に反映させている。	毎月開催するケアサポート会議において、課題の検討や意見交換が行われている。担当制を採用し職員が責任をもってケアを行っており、担当する入居者について積極的に発言し協議がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握に努め、労働時間に関し、本人の希望を出来る限り考慮した勤務体制をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修のほか、外部の研修案内も回覧し、研修を受け、ケアの向上に活かしてもらいように努めている。介護技術については、法人の研修もあり、又、現場で都度指導する様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて、他の施設職員との交流、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族に話を聞く機会を設け、苑での生活について、不安に思う事、要望などについて詳しく説明し、環境が変わっても安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に今までの暮らしぶり、本人の状態について詳しく伺った上、不安なことや要望に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスをよく聞いた上で他のサービスが必要な時は、紹介なども行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの暮らしや得意な事を知った上で、共に家事をしたり、出かけたりし、共に暮らしていく者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には少しの生活の変化であっても連絡報告をし、本人の状態を理解してもらえるように、手紙や電話をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会に来られた時は歓迎すると共に、ゆっくりくつろげるように配慮し、また職員が付き添いで外出もしている。	お墓参りや理・美容室の利用など、家族と職員が分担しながら馴染みの関係の継続を図っている。来客と共に過ごす時間を大切にし、訪問者が心地よく過ごせるよう配慮し、散歩に誘うなど支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	移動可能な小テーブルを使用し席の工夫をしたり、個々への言葉がけに留意し孤立しない様になっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた方を訪問したり、経過を伺う事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自治会における話し合いの中から希望や意向の把握に努めている。また「24時間シート」を用いて思いをくみ取り実行している。	これまで利用してきたセンター方式シートの中から殊に24時間シートを活用して意向の把握に努めている。職員毎に担当する入居者を定めることで、思いや意向の把握が深まっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から生活歴、暮らし方生活環境を聞き、自宅から家具や趣味の道具類を持ってきて頂くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回と入浴時体調の変化がある時は常にバイタルチェックを行い、心身状態の変化に注意し本人の希望を優先し過ごしてもらいながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者等の意見を取り入れている。また職員からのモニタリングの他月1回のケアサポート会議での意見を聞き介護計画に活かしている。	職員1人が1・2名の入居者を担当することで日常生活支援が責任をもって行われており、課題発見のためのモニタリングが丁寧になされている。家族の意向は居室日誌で記録され、毎月のケアサポート会議に反映されて介護計画に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の居室日誌に細かく記録し申し送っている。月1回のケアサポート会議でもケアの見直しを行い、実践や介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の受診や入院により、ご家族が対応しきれない場合や、遠方におられる家族に変わっての買い物等柔軟な支援やサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園に季節の花を見に行ったり、海岸を散歩したり温泉での足湯やドライブで楽しみを持って暮らしていけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間毎の往診、随時の電話相談をし、必要な時は、他の医療機関を紹介状等をいただいた上での受診支援をしている。	入居者は法人内診療所の医師を主治医としており、毎週2回の往診と随時の電話相談によって健康管理が図られている。歯科など外部の専門科受診には職員が対応して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間毎に訪問看護があり相談や主治医への報告により適切な指示を頂きました、利用者の異変時、24時間対応でき支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、治療に対する説明を受け、退院時には、ケアの指導を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護度が重度になりつつある利用者については、家族に今後の支援と、対応の限界についても説明し、意向を聞き、今後について話し合いを行っている。	ホームで取りうる対応について入居時に説明している。重度化に対しては併設する特別養護老人ホームへ移行するなど法人全体として関わっている。これまで看取りの実績はないが、介護度の高い入居者もあり、今後の課題として認識されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命の講習を受けており、訓練も定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員の指導のもと、年1回避難訓練を行い、また定期的にホーム単独でも行っている。地域の避難訓練に参加し、運営推進会議の席上でも地域代表の方にホームの実態を説明し、協力をお願いしている。	火災に対する避難・誘導訓練は定期的の実施されている。地震・津波を想定した地域の合同防災訓練に参加して近隣高台への避難・誘導を経験した。水害を想定しライフジャケットも備えられている。	海辺に立地しているため高潮・津波などの水害を想定した訓練を継続することが期待される。隣接するデイサービス車両を用いた自主避難、高台の姉妹施設からの応援派遣など、現実に即した訓練が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	食事、入浴、排泄等日常生活面でのケアに対しての言葉かけさりげない対応を心掛け、誇りやプライバシーに配慮している。	言葉かけでは声のトーンにも配慮し、言葉使いにも気を配り、入居者を尊重した関わりに努めている。職員間で互いに注意し合える関係を築くよう努めており、不適切な表現には管理者や先輩職員から日常的に指導がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情を見ながら思いを感じ取り、ゆっくり言葉をかけながら自己決定を促すように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出が好きな方には、買い物や散歩を楽しんでもらえる様に支援し、ホームで過ごされる方は自分のペースで趣味や本を読んだり、家事を手伝ってもらったりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月半に1度は、美容師が来苑し、散髪を行っている。同じ服や季節に合わない服にならないよう着替えの用意には注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ランチョンマットを敷いてもらい、食器、箸、大きさ、形、重さを個別に合わせ使用してもらっている。食前のテーブル拭きやおしぼりたたみのお手伝いをお願いしている。	入居者の持つ能力や関心にに応じて盛り付け、配膳、テーブル拭きなどに参加している。食事は栄養士が作成する献立を参考にしながら、調理担当職員を中心に全ての職員が分担して手作りしており内容も豊かである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士により献立を参考に食事を作っている。食事量、水分量を記録している。食事形態の変化が必要になった利用者については都度対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前、食後に口腔ケアを実施している。歯ブラシ、クルリーナブラシを使用し、個々に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にトイレでの排泄、失禁を記録し、個人の排泄パターンを把握し、トイレに誘導するようにしている。またプライバシーにも配慮している。	入居者に対して個別に排泄パターンを把握して誘導を行っており、日中はほとんどの入居者が布パンツで過ごすことができる。排泄を自立に近づけることが、心身ともに穏やかな生活に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食に毎日バナナやヨーグルトを毎日つけたり、献立に繊維質を多く取り入れたりし、自然排便に心掛けている。排便がない場合は通じ薬でコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎週月・火・木・金のうち2回、本人の体調、気分を聞いて入浴してもらっている。希望により2回以上入浴される方もいる。季節により菖蒲湯、柚子湯をすることもある。	1対1の入浴ケアが基本となっておりプライバシーにも配慮が行き届いている。介助の必要に応じて2名での対応も適切に行われている。菖蒲湯や柚子湯など、入浴を楽しむことができるよう工夫がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は1人ひとりに合わせ、昼寝をしてもっている。夜間は紙パンツや紙オムツなど必要に応じて対応し、安心して睡眠がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の大切さを職員は理解しており毎日その日の担当が各利用者の服薬を管理している。薬の変更、追加、副作用については申し送りをしており症状の変化にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人その人にあつた家事をお願いしている。買い物や散歩、ドライブ等に誘い気分転換を計っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節や体調に考慮しながら日常的に職員が付き添いホーム周辺を散歩している。また大型車で花見や足湯などにも出かけている。	軽自動車により1対1で嗜好品の買物に出たり、事業所の買物に同行するよう誘うなどしている。近隣への散歩も頻繁に行っている。隣接するデイサービスの車両を利用して初詣やお花見など2か月に1回程度の外出を行っている。	職員は外出の内容を豊かにし回数もさらに多くしていくことが課題だと認識している。リフト付き公用車運転の苦手意識を克服して活用し、外出支援が充実できるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の買い物は預り金よりお金を渡して買っている。自身では金銭管理は出来ず預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親類からの電話をとりついたり、自身から電話をかけたいとの希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの行事を写した写真を共用の空間に飾ったり、季節を感じてもらえるように、庭の花を生けたり、手作りの飾りを壁にかけ、居心地良い工夫をしている。	季節感を演出する職員手作りの作品が壁を飾っており、美しい出来栄が見事である。スペースの狭さから家具の配置に苦心しているが、季節の生花も飾られ入居者がリビングで過ごす時間の長さが居心地の良さを示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小テーブルを利用し、その日その時に合った空間をつくり、1人になれたり、気の合う利用者同士で過ごせたり出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談し、自宅で使っていた家具を持参してもらったり、家族の写真を壁に飾ったりしている。家具の配置は本人と相談し工夫している。	私物の持ち込みは多くないが、壁面を鉋やテープの制限なく使用できるため、家族や行事の写真、絵画などが数多く飾られて個室としてのたたずまいが保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室に戻る事が困難な方については、目印になる物を置いたり、本人、家族に了解の上、大きく名前を記入した紙を居室の入り口に飾らせてもらっている。		